

2021 年度 自己点検・評価報告書

学生支援評価分科会

2022 年 3 月

基準7 学生支援

- ・ 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- ・ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

①できる限り実績や目標達成率等を示すこと

②学生支援ポリシーについて、コロナ禍における新生活様式との整合性や発展的変更、追加状況が必要かを検証すること

③正課外活動における学習成果の測定について、取り組みの情報やデータ等を学外にも公開すること

④事業活動、学生の能力開発について、学外への説明や報告媒体について検討すること

==参考==

(小林委員)

○本学は留学生を含む多様な学生に対して、様々な学生支援をおこなっている。特に、学生支援方針の一つとして、豊かな人間性を形成するため、寮生活やクラブ活動、ボランティア活動に注力している。その方針に基づき、大学全体において、学生寮、部活動、留学といった課外活動のラーニング・アウトカムズを策定し、到達目標を明示するとともに、自己評価アンケートを実施し、課題発見およびその改善に向けた取り組みを行っていることは、教育目標やディプロマ・ポリシーの実現に向けた取り組みであり、評価できる。今後、取り組みの成果に期待したい。

(沖委員)

○p. 65の実施状況の表やp. 72のクラブにおけるアンケート概要で示されているところもあるが、単に「実施している」「努めている」との表記だけのところも散見されます。できる限り実績や目標達成率等を示してください。

(濱名委員)

○SPACs 中心の学生支援、日本語ライティングC、CETL活動などは優れたものと評価する。障がい学生への支援もできている。

(篠永委員)

○学生支援ポリシーは、まさに、学生が学修に専念し安定した生活を送れるようにできるための方針であり、その内容にも随所に「学生の要請」といった学生の立場に立ってのものになっている点、評価できるポイントのひとつであると思います。そのような中、今回のコロナ禍において、P75～記載の問題点にも示されているように、新生活様式に上記ポリシーとの整合性と、発展的変更や追加条項が必要であるかの検証は、学生ひとりひとりに照らしますと、大学4年間のうち、コロナ禍で1年が経過し、まさに対応のスピード感が求められているものと思料します。現在も、前倒しのご検討が、学生第一主義に立脚してなされているものと思いますので、そのあたりの検討状況の情報を適宜開示されると、一層宜しいのではないかと思います。

○成果外活動における学習効果（ラーニング・アウトカム）を測定する取り組みは特筆すべきものと感じます。ちなみに、こちらの数値についても「学生生活アンケート結果（IR室）」に記載されているものと思われませんが、ホームページ上で公開されているものより詳細のデータがございましたら、「きちんと分かり易い場所に分かりやすく開示する」ということは重要なポイントなので、記載いただくのがよろしいかと考えます。

○貴学の事業活動、学生の能力開発においても非常に重要な領域と存じますので、「基準4：教育課程・学習内容」同様に外部への説明・報告媒体についてのもう一段の検討も有用と考えます。

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

①できる限り実績や目標達成率等の公表

(1) 学生の能力に応じた補習教育、補充教育

1. 濱名委員、沖委員からのコメントにあるように、SPACEを中心とした学生支援、日本語ライティングセンター、CETLの取組などは評価していただき、その実績についても、数値で示している。その上で、基準7ではないが、基準8で小林委員からいただいたコメント（「SPACE」は日本のラーニング・コモンズ、グローバル・コモンズとして、先駆的な施設だと思うが、他大学もアクティブ・ラーニングやグローバル化に対応した施設を次々とオープンしている。可能であれば、最近の新たな活用方法や取り組み事例、施設を活用した成果の可視化等が記載されているとさらに良いのではないかと。）を鑑み、今年度については、改善のための新たな取組として、以下の方針を計画したい。
2. すでに、SPACEやCETLにおける具体的な取組は、学士課程教育機構が年4回発行するニュースレター「SEED」にも掲載・報告しているが、ホームページでの発信が不十分であるため、今年度はホームページの更新・拡充を進めていく。また、IRデータの活用も含め、すでに把握している実績をもとに、定量的な効果測定を定期的に行うための工程表を作成する。

(2) 正課外教育

1. ③で回答

(3) 障害のある学生の状況把握と修学支援

1. 2021年度の合理的配慮申請数、新規継続別、学年別、学部別、障害種別を公表する
2. 2021年度秋学期に向けて合理的配慮申請の教員への通知方法の改善をはかる

(4) 成績不振の学生の状況把握と指導

(5) 留年者及び休学者の状況把握と対応

(6) 退学希望者の状況把握と対応

(7) 奨学金その他の経済的支援の整備

(8) 学生の相談に応じる体制の整備

1. 2021年度の学生相談室面談数、学年別、学部別、相談種別を公表する

(9) ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備

(10) 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮

(11) 留学生の多様なニーズへの支援

1. 春学期はほとんどの留学生が海外でオンライン授業を受講した。リアルタイムで学べば、時差の問題で健康面でも長続きできず、昼夜逆転になるので現地でのアルバイトなどもできない状態になるなどの課題が出てきた。逆にオンデマンドになると教員の負担が増えることになることに加え、収録映像では臨場感がないなどの声があった。暫くは、留学生がオンライン授業を続ける可能性が高いため、今後の更なる工夫が必要になる。
2. 日本語が理解できない留学生から、学内ポータルサイトなどに投稿されるお知らせが、自分に必要な通知がどうか判断できないとの苦情があったことから、関係部署で改善を図った。英語のみで卒業が可能なコースが設置されたことで、各課から学生へ通知するメッセージも、必ず英文を同時発信しなければならない状況があることから、今後も声を反映する仕組みが必要。

(12) 学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備

(13) 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施

(14) 留学生のキャリア支援

1. キャリア・就職支援のための各種ガイダンス、各種イベントを全てオンラインで開催する。新型コロナウイルスの感染状況によっては対面での開催に変更する場合もある。
 - キャリアガイダンス（1年生） 2021年4月・9月
 - キャリアガイダンス（2年生） 2021年4月・9月
 - インターンシップ・就職ガイダンス（3年生） 2021年4月・6月・7月・9月
 - 就職ガイダンス（3年生・大学院生） 2021年10月・2022年1月
 - 就職ガイダンス（4年生・大学院生） 2021年4月
 - 地方就職ガイダンス 2021年6月・9月・12月
 - 卒業生懇談会（1・2年生） 2021年12月
 - 学内ビジネスコンテスト（1・2年生） 2022年2月
 - 大学紹介型インターンシップ実習報告会（1～3年生） 2021年9月・2022年3月
 - 学内1day仕事体験イベント（2年生） 2022年1月
 - 卒業生懇談会（3年生・大学院生） 2021年10月

就活合宿（3年生・大学院生） 2021年10月・11月

筆記試験対策講座（3年生・大学院生） 2021年10月～2022年3月

就職決起大会／学内1day就活対策イベント（3年生・大学院生） 2022年1月

2. 進路相談を希望者対象に対面およびオンラインで実施する。

進路相談（1～4年生、大学院生） 2021年4月～2022年3月

3. ゼミ就活懇談会を希望ゼミ対象に対面およびオンラインで開催する。

ゼミ就活懇談会（3年生） 2021年4月～7月、2021年9月～2022年1月

4. 学内企業説明会およびセミナー、企業訪問（企業との情報交換）を全てオンラインで開催する。新型コロナウイルスの感染状況によっては対面での開催に変更する場合もある。

5. 学内合同企業説明会（4年生・大学院生） 2021年4月～10月

学内合同企業セミナー（3年生・大学院生） 2021年12月・2022年1月～3月

6. 企業訪問 2021年8月～2022年3月

7. ホームページを改修し、ステークホルダー、学外者への情報発信を強化する。

2021年9月 トップページの改修

2021年10月～12月 各ページの改修、12月末をもって改修終了

8. 卒業生の勤務先情報のデジタル化を 2024年度までに年次計画で推進し、学生の利便性の向上を図る。

2021年度～2022年度 日本語での卒業生情報検索機能の開発・導入

2023年度～2024年度 英語での卒業生情報検索機能の開発・導入

②コロナ禍における学生支援ポリシーの検証

1. 2021年度秋学期中にコロナ禍での新生活様式への対応について検証を行う。

修学支援 教務課、学習支援課、国際課、学生課

生活支援 学生課

進路支援 キャリアセンター

==参考==

<学生支援ポリシー>

○修学支援

1. 学生の学習能力の開発・向上を図り、学習活動の充実・活性化を促進するために、学習環境を充実させ、学習支援サービスを提供する。

2. 障害のある学生の修学を支援するため、学生から要望があり、配慮が必要であると認められた場合は、教職員と連携し支援を行う。

3. 修学の継続に困難を抱える留年者や成績不振者などの学生に対して、学習方法や履修に関する面談などの支援を教職員が行う。

4. 多彩な留学制度等を設け、学生が国際性を身につけることのできるよう支援を行う。

○生活支援

1. 学生の心身の健康の保持増進のために環境を整備する。
2. 学生の人権を保障するため、キャンパス・ハラスメント防止のための対策を行う。
3. 学生の経済的状況に応じ相談体制を整備し、大学独自の奨学金および学外奨学金等の支援、チューデントアシスタント制度の充実、アルバイト紹介システムを通じた紹介を実施する。
4. 寮生活、クラブ活動およびボランティア活動等の課外活動において、学生が人間性を培うことのできる環境を整備する。
5. 「学生生活ポリシー」を公表し、学生に求められるもの、学生生活で留意すべきことを学生に提示する。

○進路支援

1. キャリアデザインを実践的に行うことを目的としたキャリア教育科目を設置し、支援を行う。
2. 多様な学生状況に応じて教職員などによる個別の進路相談を行う。
3. 国家試験、教員採用試験や各種資格試験の合格を目指す学生に対して支援を行う。
4. 在学生によるピアサポート、卒業生によるサポートを通じて、就業力の強化、進路支援の拡充を行う。

③正課外活動における学習成果の測定について、取り組みの情報やデータの公開

1. 課外活動（クラブ・寮）におけるラーニング・アウトカムズについて、より客観的な評価方法に結び付けるために、ルーブリック評価を用いることを検討して参りたい。

2021年度～2022年度：ルーブリック評価の案を作成

2023年度：ルーブリック評価でのアンケート実施

④事業活動、学生の能力開発について、学外への説明や報告媒体について検討

1. ①③で回答

⑤その他

1. 2021年度秋学期に向けて公欠手続きのオンライン化を図る
2. 2021年度秋学期中に自己点検評価について学生への意見聴取を行う。

【3】2021年度の取り組みの点検・評価と2022年度以降の方針

(1) 学生の能力に応じた補習教育、補充教育

1. SPACeでは、2021年度も毎週1回の定例会を軸に、総合学習支援センター（SPACe）センター長、副センター長、事務職員が集まり、SPACeの運営について検討を行ってきた。コロナ禍が継続している状況を鑑み、2021年度のSPACeの各種サービスは、2020年度に引き続きオンライン提供を中心に行ってきた。そのような中、2021年度に新たに始めた取組として、

①「Study with SPACe」の提供

SPACeに足を運ばない学生のために、オンライン上で自習空間の提供を開始した。秋学期の中間試験、また、期末試験期間前のそれぞれ1週間、SPACe用のZOOMアカウントを設定し、本学学生であれば、自由にアクセスできるZOOM空間を準備した。SPACe用アカウントでは、SPACe内の様子をカメラで流

すことで、少しでも大学で勉強している雰囲気を感じてもらえるようにした。日々の利用者数は多くないが、継続的に実施してほしいとの声もあり、学年末休業期間中も引き続き提供している。

②オンライン「Comment for SPACe」を開始

SPACeでは、2013年開設当時から、SPACe内に「Comment for SPACe」という目安箱を設け、学生の意見をSPACeの運営に反映してきた。コロナ禍の中、直接SPACe内で目安箱を利用できる学生数が減ったことを受け、オンライン上でも意見を投稿できる専用フォームを作成した。

の2件が挙げられる。サービスの効果については、2021年度の実績を踏まえて、2022年度の継続などについて検討していく。

2. SPACe ホームページの充実について、現状は学習セミナーの開催報告やSPACeの開館体制の案内などを中心に活用している。今年度中にホームページ活用検討会議を開催し、2022年度以降の充実を図っていききたい。

3. 2022年度の各種サービスについては、アフターコロナを見据えて、オンラインの継続のみではなく、対面の再開も含めて検討していく。オンラインでも十分学習効果の得られるサービスについては、オンラインを継続しつつ、ワールドランゲージセンターの語学プログラムのように、対面の方が効果が期待できるプログラムについては、一部対面の再開を行っていききたい。

(2) 正課外教育

2021年度は、これまで学生寮やクラブ活動所属の学生に対して学修成果アンケートを実施してきた概要をホームページで公表する。

(3) 障害のある学生の状況把握と修学支援

1. 2021年度の合理的配慮申請数、新規継続別、学年別、学部別、障害種別を公表する。

2. 2021年度は、障害学生支援室運営委員会を2回開催（2021年11月16日、2022年3月15日）した。2022年度に向けて合理的配慮の教員への通知方法の改善と申請者の利便性を高めるためのしおりを作成する。

(4) 成績不振の学生の状況把握と指導

(5) 留年者及び休学者の状況把握と対応

(6) 退学希望者の状況把握と対応

(4)～(6)の教務事項について、2021年度秋学期にスタートした公欠手続きのオンライン化について、問題なく運用を行うことができた。2022年度についても、運用を継続し、課題等改善を行う。これ以外の項目については、特になし。

(7) 奨学金その他の経済的支援の整備

1. 2020年度以降進めている高等教育の修学支援新制度の実施に伴う奨学金システム改修の検証を行い、奨学金情報の見える化と、業務負担の低減、学生の利便性向上に取り組む。

2. 高等教育の修学支援新制度と本学独自の奨学金制度との併給について、課題点を整理し制度の見直

しを行う。

3. 高等教育の修学支援新制度の選考基準等も踏まえ、本学独自の経済支援の奨学金制度について、選考方法および申し込みから給付までのプロセスの改善点を検討する。

(8) 学生の相談に応じる体制の整備

1. 2021年度の学生相談室面談数、学年別、学部別、相談種別を公表する。

2. 2021年度秋学期より、コロナ禍における利用者の利便性を高めるため、面談の申し込み方法に google foam による申し込みを加えた。2022年度も継続して行う。

(9) ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備

1. 2021年度も初年次セミナー（1年次必修科目）において、本学のキャンパス・ハラスメント防止の取り組みについて説明した。2022年度も実施する。

2. 2021年度に「多様な性のあり方に関する基本方針」を策定し、HPで公表している。

(10) 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮

1. 学習支援ポータルサイトに「検温記録システム」を導入した。学生が体温や体調をシステムに入力することで、体調不良者を早期に発見し、保健センターと連携して学生の健康保全に対応する。

2. 寮生を対象に、春・秋の入寮時にPCRモニタリング検査を実施した。引き続き、2022年度も実施する。

3. コロナ禍の中、来校できない学生にオンラインでの診察を実施した。引き続き、2022年度も実施する。

(11) 留学生の多様なニーズへの支援

1. 多くの留学生が未だ入国できず、海外でオンライン授業を受講した。時差の問題で昼夜逆転になる学生向けに、オンデマンドによる配信を積極的に取り入れるなど、全学あげて対応した。

2. 国際課で毎日行っているZOOMを活用したバーチャル窓口も定着し、不安を抱える学生もリアルタイムに相談出来ている。

3. 2022年3月から入国緩和の流れとなってきた。入国に関する手続きや入国後の支援など、個々の対応が必要になるため、引き続き充実した体制で取り組んでいく。

(12) 学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備

(13) 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施

1. 2021年度のキャリアセンターの各種ガイダンス・各種イベントについて、コロナ禍にあって、サポートの質を低下することなくオンラインでほとんど開催した。一部のガイダンスやイベント、進路相談について、対面開催もできた。ホームページの改修は年度内に終了し、卒業生の勤務先情報のデジタル化は経年計画でスタートすることができた。

2. 2022年度の各種ガイダンス・各種イベントは本年度同様に実施する予定で、コロナ感染状況によっ

ては対面開催を増やしていきたい。また、オンライン開催の利点もあるため、オンライン対応できるものは今後も継続していく。

(14) 留学生のキャリア支援

②コロナ禍における学生支援ポリシーの検証

○修学支援

○生活支援

6. コロナ禍の中、オンラインを活用したサービスにより、学生からのアクセシビリティを向上させ充実した支援を実施する。

○進路支援

③正課外活動における学習成果の測定について、取り組みの情報やデータの公開

2021年度は、学生寮やクラブ活動を通して修得を期待する学修成果一覧をホームページで公表する。

④事業活動、学生の能力開発について、学外への説明や報告媒体について検討

①、③で回答。

⑤その他

1. 第2回学生支援評価分科会（2022年1月28日）において、2021年度自己点検評価内容について、学生委員と意見交換を行った。